

平成29年度京都市景観市民会議

「京都市景観市民会議」は、景観政策を継続的に進化させることを目的に、景観政策に対する市民の皆様からの御意見を頂戴する場として平成23年度から開催しているものです。平成29年度は、新景観政策10周年記念事業として以下のとおり会議を開催しました。

日時 平成29年11月19日(日) 13:00~16:30

場所 ひと・まち交流館京都 地下1階
京都市景観・まちづくりセンター ワークショップルーム1・2

参加者 市民公募委員17名、有識者等14名、傍聴者20名

テーマ 新景観政策10年
京都から考える これからの歴史・文化・創造都市

次第 第1部 基調報告
第2部 ワークショップ
第3部 全体会議(総括)

平成29年度 京都市景観市民会議

新景観政策10年
京都から考える これからの歴史・文化・創造都市

京都の景観について
意見交換

市民公募委員を募集します

京都市では、歴史的に景観政策を検証し、進化させていくために、市民の皆様からの御意見を頂戴する場として、平成23年度から「京都市景観市民会議」を開催しています。今年度、「新景観政策」の実施から10年を迎えることから、「京都市景観市民会議」を10周年記念事業として開催し、市民の皆様や事業者、関係団体の方々と、政策の趣旨や成果を改めて確認するとともに、時代の変化に応じた今後の政策の展開について議論を深めてまいります。つきましては、会議にご参加いただく市民公募委員を以下のとおり募集しますのでお知らせいたします。

募集人数 16名程度
応募期間 平成29年8月24日(木)～平成29年9月25日(月)
※郵送の場合は、9月25日必着

応募・問合せ先
〒604-8571 (住所は記載不要)
京都市都市計画局都市景観政策課 企画担当
TEL: 222-3397 FAX: 222-3472
E-mail: kaikan@city.kyoto.lg.jp

【平成29年度京都市景観市民会議の概要】※会議は年1回のみ開催です。
開催日時: 平成29年11月19日(日) 午後1時～午後4時30分
場 所: ひと・まち交流館京都 地下1階
場 所: 京都市景観・まちづくりセンター ワークショップルーム1・2

次 第: 第1部 基調報告
第2部 ワークショップ
第3部 全体会議(総括)

トータルコーディネーター: 門内輝行氏 (大阪芸術大学教授・京都大学名誉教授)

京都市
景観政策課
市民公募委員募集チラシ

市民公募委員募集チラシ

平成29年度 京都市景観市民会議

新景観政策10年

京都から考える これからの 歴史・文化・創造都市

第1部 基調報告
・「新景観政策」の取組内容
・新景観政策10周年記念事業の概要

第2部 ワークショップ
市民公募委員、有識者等でテーブルを構成し、以下のグループに分かれて意見交換を行います。
①都市の活力を生み出す景観 ③景観を紡ぎ出すデザイン
②コミュニティと景観まちづくり ④景観・文化の継承と創造

第3部 全体会議(総括)

京都市景観市民会議
傍聴者募集

先着
50名
事前申込要

参加費
無料

日時
平成29年11月19日(日) 13:00-16:30
※開場 12:30

会場
ひと・まち交流館京都 地下1階
京都市景観・まちづくりセンター ワークショップルーム1・2
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅原町83番地の1(河原町五条下る東側)

市バス4、17、205号系統(河原町正通)下車
京阪電車「清水五条」下車 徒歩8分 地下鉄烏丸線「五条」下車 徒歩10分
※雨天の場合は、公共交通機関をご利用ください。

傍聴者募集チラシ

傍聴者募集チラシ

平成29年度京都市景観市民会議 委員名簿

(敬称略)

区分	氏名	所属等	
トータルコーディネーター	門内 輝行	大阪芸術大学教授 京都大学名誉教授	
都市の活力を生み出す景観	市民公募委員	梅原 生羽	
		森川 盟	
		山本 茂博	
		吉川 誠	
	有識者	大島 祥子	一級建築士事務所スーク創生事務所代表
	京都市景観デザイン会議 ファシリテーター	下西 伊佐男	京都府建築家協同組合
	久守 一敏	NPO法人 京都景観フォーラム	
コミュニティと景観まちづくり	市民公募委員	上出 圭一	
		神戸 啓	
		小西 宏之	
		竹内 昌代	
	有識者	杉崎 和久	法政大学法学部教授
	京都市景観デザイン会議 ファシリテーター	篁 正康	一般社団法人 京都府建築士会
	小林 明音	NPO法人 京都景観フォーラム	
景観を紡ぎ出すデザイン	市民公募委員	加藤 正浩	
		西村 良子	
		船山 喜美子	
		渡邊 明日佳	
	有識者	中嶋 節子	京都大学大学院人間・環境学研究科教授
	京都市景観デザイン会議	名和 啓雅	一般社団法人 京都府建築士事務所協会
		羽生田 英雄	一般社団法人 京都建築設計監理協会
ファシリテーター	北川 美里	NPO法人 京都景観フォーラム	
景観・文化の継承と創造	市民公募委員	荒木 泰子	
		谷口 興紀	
		中津 めぐみ	
		中原 広貴	
		村井 直也	
	有識者	阿部 大輔	龍谷大学政策学部准教授
	京都市景観デザイン会議 ファシリテーター	道家 駿太郎	公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部 京都地域会
	内藤 郁子	NPO法人 京都景観フォーラム	

※京都市景観デザイン会議：新景観政策の更なる充実を図るため、京都の優れた景観を保全し、創出するための建築物等のデザイン基準等について、京都の建築設計に携わる専門家及び学識経験者との恒常的な意見交換を行う会議。京都市景観市民会議には、毎年景観デザイン会議の委員にも御参加いただいています。

会議開催状況

(1) 第1部 基調報告 13:00~14:00

第1部では、「新景観政策10年特別鼎談」の概要及び新景観政策の取組状況を門内輝行教授から、「新景観政策10年連続講座」の概要を各回のコーディネーターから、御報告いただきました。

特別鼎談等について

門内 輝行 (大阪芸術大学教授, 京都大学名誉教授)

連続講座について

- ①「都市の活力を生み出す景観」
大島 祥子 (一級建築士事務所 スーク創生事務所代表)
- ②「コミュニティと景観まちづくり」
杉崎 和久 (法政大学法学部教授)
- ③「景観を紡ぎ出すデザイン」
中嶋 節子 (京都大学大学院人間・環境学研究科教授)
- ④「景観・文化の継承と創造」
阿部 大輔 (龍谷大学政策学部准教授)



第1部の様子

(2) 第2部 ワークショップ 14:10~16:15

第2部では、連続講座の4つのテーマに分かれて、ワークショップ形式で意見交換を実施していただきました。出された意見は模造紙にまとめていただき、グループごとに発表していただきました。



会議の様子(ワークショップ)

各グループで出された意見の概要

①都市の活力を生み出す景観

- ・ 新しい活力を生み出すためには、伝統を活かすだけでなく全く新しい次世代のデザインを取り入れることも必要。京都はいつでも新しいものを取り入れてきた。
- ・ 都市が大火で燃えてリセットされても、価値がバトンタッチされながら、都市が形成されてきたということが京都の特徴。
- ・ 人口が減少するなかでも、観光客が増える傾向にあれば、活力は生まれるだろう。住む人も、来る人も、気持ちのよい環境のなかで大勢の人が過ごせるという理想形が大切。
- ・ たくさんの観光客が色々な場所に分散することで、気持ちの良い状態が生まれるのではないか。
- ・ 民泊がきちんと制度化されれば、京町家の減少に歯止めをかけることもできるのでは。
- ・ 京町家だけでなく、お寺や新しい建物など、それぞれの個性を持った魅力的なまちが所々にあることが大切。
- ・ 目先の経済性を見るだけでなく、10年後も見据えた議論ができる場を持つことや、問題意識を次世代にも継承することが大切。
- ・ 投資を短期で回収するのではなく、長期的に回収するための仕組みが必要。

②コミュニティと景観まちづくり

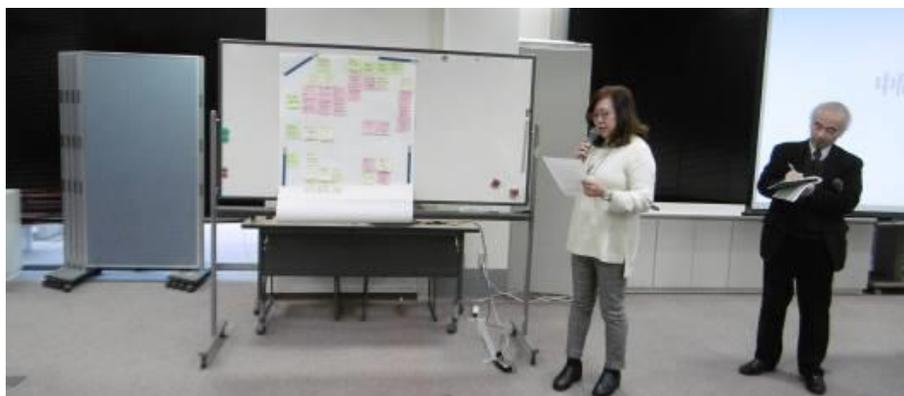
- ・ コミュニティの中で、景観の将来像を皆でつくる必要がある。
- ・ 観光客が増加し、「観光客に対して見せるまち」になっているのではないか。
- ・ 京町家だけでなく、洋風の建物や現代的な建物など、京都には良いものがある。今までは見向きもされなかったところへ目を向けることも必要ではないか。
- ・ 地域のまちづくりは、景観だけでなく、他の切り口でも動いており、サポートが必要なところは地域によっても様々である。総合的な支援が必要。
- ・ コミュニティの形成に寄与しているお祭りに対する理解を再考することが必要。
- ・ ホテル、空き家、コインパーキングなど、コミュニティに加わらない空間が増加している。
- ・ これからの景観まちづくりは、子どもたちへの教育という面からも何か引き継いでいく何らかの手立てが必要。

③景観を紡ぎ出すデザイン

- ・ 緑地の在り方や道の使い方など、建物以外でも景観にとって大事な要素はあるのではないか。
- ・ 街灯の色を京都らしい明かりの色、電球色にするべき。
- ・ 「旧市街地」とされている範囲が広いので、もう少し地域ごとにきめ細やかに考える必要がある。
- ・ 「守るべきものは何か？京都らしさとは何か？」を考え続け、議論することが重要。
- ・ 京都らしさを守るためにも、京都人のプライドを受け継いで育てていくことが必要。
- ・ 古い建物を残す場合、元の用途では使えなくても、新しい使い方ができる場合がある。新しい発想や感覚と、持ち主の寛容さをマッチングさせる機会があれば良いのでは。
- ・ 木造の建物の改修など、仕事があれば技術が残り、継承されていくだろう。

④景観・文化の継承と創造

- ・ 景観は一度壊されると戻って来ない。京都らしさにつながる寺社をうまく継承していかなければならない。
- ・ 京都には大学がたくさんあるので、廃れたものを新たに再興させる取組も可能なのではないか。
- ・ 景観規制が形態規制だけになっている。背景にある京都の伝統や文化、美意識を同時に継承する仕組みをつくることが重要。
- ・ 京町家の表構えでも、中では鉄工所や織物等、様々な産業が営まれている。こうした産業をどのようにして維持していくかが重要。産業が衰えていくと、文化力も衰えていき、景観へも影響するのでは。
- ・ 市民が参加できる景観市民会議のような場を継続して開催することが重要。
- ・ 文化の滲み出しが景観だと言えるが、文化と景観の関係性が乖離してしまっている。器としてのみ京町家等を残すのではなく、そこにあった働き方や作法が抜け落ちてしまっていることを理解し、京都の文化とは何かを見直すことが大切。



発表の様子

(3) 第3部 全体会議（総括） 16:15～16:30

門内トータルコーディネーターからの総括

①都市の活力を生み出す景観

- ・ 見るだけの観光から、生活文化等を学ぶ観光へと、観光の在り方が変わり始めている。一方で、「暗号化する社会」という言葉があるが、今京都ではゲストハウスやホテルなどのプロジェクトが非常に多く、それらの多くはブラックボックスになってしまっている。
- ・ もう少しオープンな形で、文化や経済と結びつけた新しい観光のあり方を考え、見てもらい方のプログラムを開発するということも、文化交流の一つとして十分あり得る。

②コミュニティと景観まちづくり

- ・ 現在のまちづくりは、法律や技術面などの様々な知識がなければ対応が難しい場面もあり、経済的、人材的な支援の仕組みをつくらなければなかなか市民の言葉が伝わっていかない。
- ・ 暗号化、ブラックボックス化する社会というものが生まれつつある気がするので、それを開けていく、交流人口も含めた、新しい開かれたコミュニティというものを考えていく必要がある。

③景観を紡ぎ出すデザイン

- ・ 「景観は見えるものだけではない」という言い方がよくなされるが、人の表情と同じように、ちょっとした動きの中で気配というものも見えてくる。
- ・ 町並みから感じられる気配など、全ての現れが景観であり、そういったあらゆる現れをきっちり読み解いていくことが大切。
- ・ 大きな開発も大切だが、玄関先に花を一輪飾るような小さな努力を積み重ねるこ

とで大きな変化を生み出していくものが景観である。

- ・ こうしたまちづくりを最終的に支えるものはシビック・プライドであり、京都はこれまでも、シビック・プライドによって素晴らしい小学校や町並みをつくってきた。そういった精神を大切にすることが重要。

④景観・文化の継承と創造

- ・ 世界の創造都市といわれる都市では、大量生産・大量消費ではなく、文化が産業となっている。地域に個性や文化がなければ、創造的なイノベーションは作り出せない。文化の力を使って経済を作り出す、知識社会の時代の経済のあり方を考えることが大切。
- ・ 一番大事なことは人材育成に尽きる。豊かな人材が蓄積しているまちであることは、非常に重要で、文化や景観を育むことにつながる。

<総括>

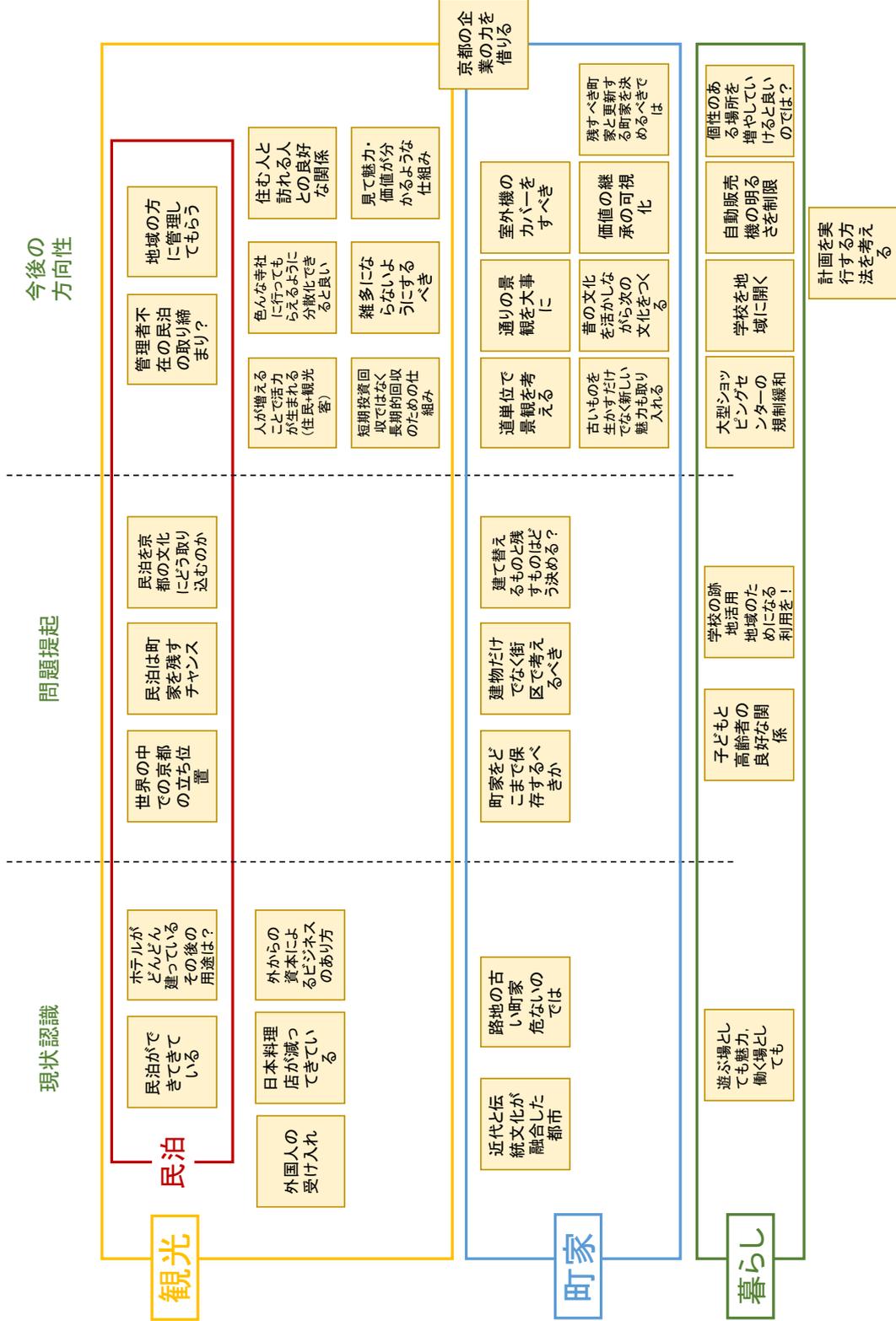
- ・ 本日出てきたデザインや文化、経済、活力などを総合して素晴らしい景観をつくり上げるためには、コミュニティづくりを抜いてあり得ない。そして、それを支援する仕組みを行政や企業と共につくっていかなければならない。



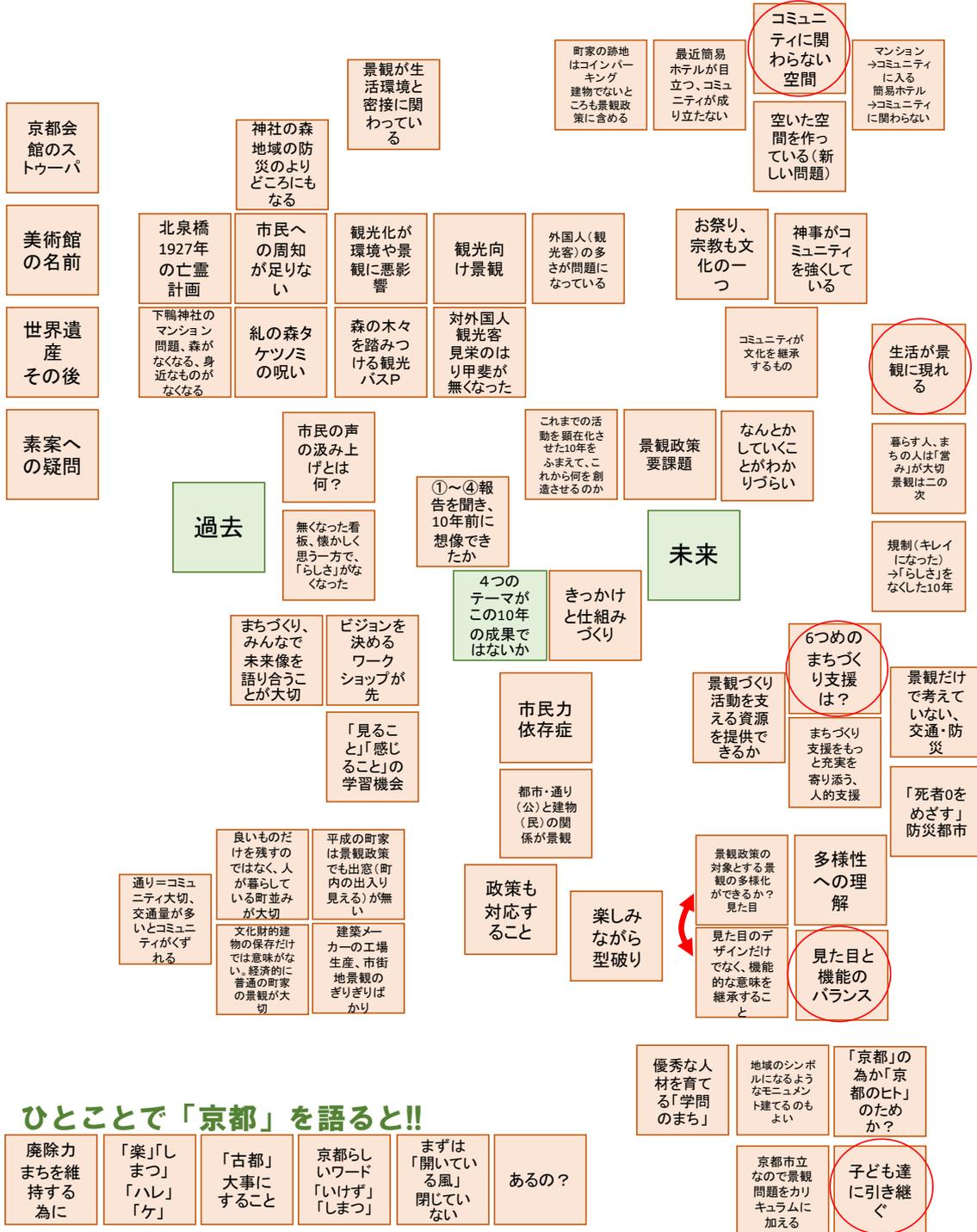
第3部の様子

各グループでまとめられた模造紙

①都市の活力を生み出す景観



②コミュニティと景観まちづくり



③ 景観を紡ぎ出すデザイン

景観を構成する個人の資産を守る

町家はこれ以上壊してはならない
個人の庭を何とか守りたい

保全と経済性のシレンマ

守るものの経済性のシレンマ
旧市街地で建てる時のシレンマ
保存と創造・再生
旧市街地型に似ている
環境に良い木造、再利用の文化

地域の特性に応じたルールづくり

旧市街地のルールが全て同じではないのか

守るべきものは何か？
京都らしさとは何か？

大切にしたいところ→
歴の建物・庭の風情・庭のつらなり
デザイン要素としてインフラ整備
交通手段のつととして市電→人復活
新しく生まれてこないでなくなっていく
ストリート要素
業のれんらんたん花
案内板
職前のまちなみの復元化を試みる
床几ベンチ
京都らしい明かり
火に近い色

京都人としての意識を作る教育

市民性、京都人のプライドを受け継ぎ、育てる
自身も担い手になりたい
自分のまわりの景観を自分達の力で守ろうとする思い
京都以外の人は田舎者？

技術の継承

技術を継承する→仕事があれば技術は残る

使い続けるしくみ

リファーマンに対するインセンティブ
事業者と市民の間をつなぐもの
人が住める工夫・住みたい人と町家のマッチング
町家を大切に思うなら本気で町家を建てやすくすることは？
気軽に維持できる支援

「京都人」のプライド

お金を度外視、うちはこう→京都人のプライド

古いものを新しいセンスで

古いままのものを使い、新しい感覚で使う

建物だけじゃない

デザイン要素
庭菜の運り、隣とあつちつ運うもの構成
普通道を楽しむ歩ける
建物以外(樹木・庭・川 etc)が作る景観も重要
道・境内的な空間のあり方

見える所に緑を

コインパークに潤いを、緑・ゲート
緑のあり方も地域で違ってくる
車社会出現→カレッジ出現、違和感
人の目につくところに緑を

考え続ける京都らしさ

守るべき景観？
市民目標の多様性
→法規制にないか
世界にここしかない街
町の山居と、都の自然
京都らしさの共有・議論の充実

コミュニティづくりのためのしかけ

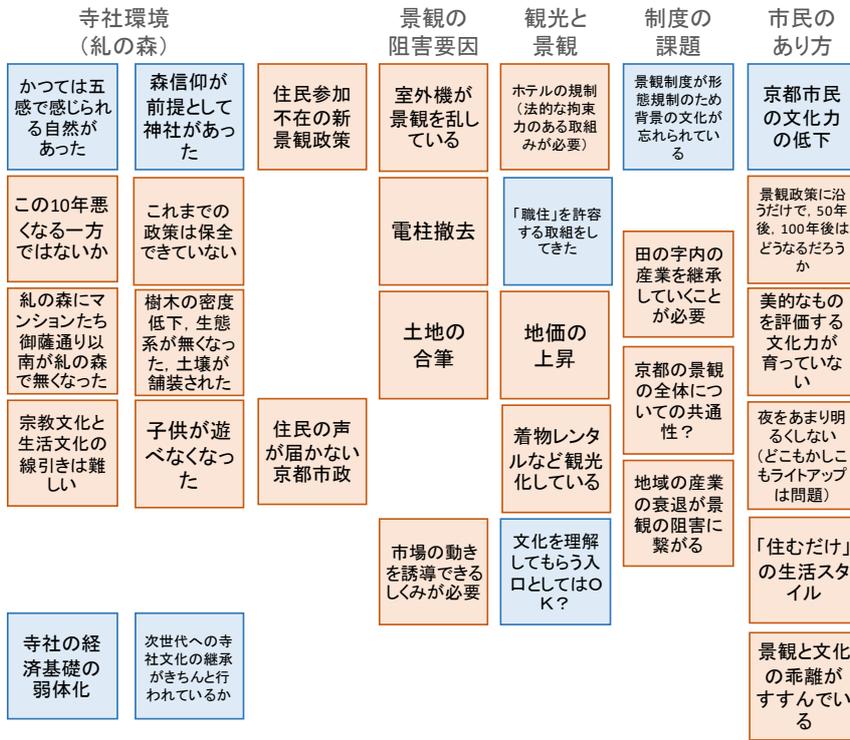
歩行者天国→まちを楽しむ
道に土に展すのも良いのでは？
人をつなぐきっかけ、地域の祭り
お祭りとか、地蔵盆、みないなもの

教育・学習

小学校・中学校のカリキュラムに「景観」教育を入れる

④景観・文化の継承と創造

課題(問題意識)



課題の原因

対応(アイデア)

